

薬物療法学

《担当者名》教授 / 柳川 芳毅

【概要】

組織が傷害を受けると、炎症・免疫反応により有害因子（異物や壊死組織など）が除去され、その後、組織修復反応によって治癒に至る。この一連の反応に異常が起これば、組織は正常に修復されず様々な疾患の要因となる。薬物療法学では、炎症・免疫反応の異常によって起こる疾患（炎症性疾患、アレルギー疾患、自己免疫疾患など）に焦点をあて、病態メカニズムと薬理学的背景に基く薬物療法について学修する。

【学修目標】

炎症、免疫、組織修復のプロセスを説明できる。
 免疫異常による疾患の発症機構と病態を説明できる。
 アレルギー疾患の発症機構と病態を説明できる。
 アレルギー疾患治療薬を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。
 自己免疫疾患の発症機構と病態を説明できる。
 免疫系に作用する薬物を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。
 抗炎症薬を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	炎症と組織修復 教科書1：p367～375 資料を配布	急性炎症、慢性炎症とは何か説明できる。 炎症の全身への影響について説明できる。 組織修復、創傷治癒のプロセスを説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-2-10-1)	柳川 芳毅
2	抗炎症薬 教科書1：p375～382 資料を配布	非ステロイド性抗炎症薬の代表的薬物を列挙し、その作用機序、適応、副作用を説明できる。 ステロイド性抗炎症薬の代表的薬物を列挙し、その作用機序、適応、副作用を説明できる。 代表的な抗炎症薬の基本構造と薬効の関連を概説できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-2-10-2)～4)	柳川 芳毅
3	免疫反応の誘導と制御 教科書1：p395～397 資料を配布	自然免疫とは何か説明できる。 獲得免疫とは何か説明できる。 免疫異常による疾患を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-2-10-1)	柳川 芳毅
4	アレルギー疾患 教科書2：p114, p304～309, p441～449 資料を配布	アレルギーとは何か説明できる。 ～型アレルギーの違いを説明し、関連する疾患を列挙できる。 アトピー性皮膚炎などの代表的なアレルギー疾患の発症機構と薬物療法を説明できる。 薬物アレルギーや接触性皮膚炎の発症機構と薬物療法を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-2-10-1), 4)	柳川 芳毅
5	アレルギー疾患の治療薬 教科書1：p387～393 資料を配布	アレルギー治療薬の作用機序と臨床応用について説明できる。 アレルギー治療薬の主な副作用について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-2-10-2)～4)	柳川 芳毅
6	自己免疫疾患 教科書2：p123～130 資料を配布	全身性エリテマトーデスなどの膠原病の発症機構と薬物療法を説明できる。 シェーグレン症候群などの難治性自己免疫疾患の病態を説明できる。	柳川 芳毅

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-2-10-1),4)	
7	免疫系に作用する薬物 教科書1:p395～411 資料を配布	免疫反応を抑制する薬物の作用機序と臨床応用について説明できる。 免疫反応を増強する薬物の作用機序と臨床応用について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-2-10-2)～4)	柳川 芳毅
8	関節リウマチと薬物療法 教科書1:p383～387 教科書2:p115, p137～139	関節リウマチの病態と発症機構を説明できる。 関節リウマチ治療薬の作用機序と臨床応用について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 D-2-10-1)～4)	柳川 芳毅

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験の成績により評価する（筆記試験）（100％）。試験終了後、正答を公開し問題の解説を行う。

【教科書】

1. 「パートナー薬理学 改定第4版」石井邦雄、栗原順一、田中芳夫編（南江堂）
2. 「コンパス薬物治療学 改訂第2版」原明義、小山進編（南江堂）

【参考書】

病気がみえる vol.6 (免疫・膠原病・感染症) メディックメディア

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲に相当する教科書を読んで疑問点を明確にしておくこと（80分）。
復習としては、配布プリントなどを活用し、講義内容を再度理解し、次回の講義に備えること（80分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

D-2-10 免疫・炎症・アレルギー系の疾患と治療薬

- 1)免疫・炎症・アレルギー系疾患の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2)治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3)治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 4)疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

柳川 芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）

【実務経験を活かした教育内容】

創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している